

## 熱川温泉病院 看護師 杉山 富実子

- 功 績** 終末期の患者さんの願いを叶えるため、自ら率先して多職種に働きかけ、念願だった思い出の場所への外出を実現。「こころ豊かな人生を支援する」という当院の病院理念を実践した功績。
- 推 薦 者** 小林 利恵（病棟師長）
- 推 薦 理 由** 終末期の患者さんの願いであった趣味の海釣りをしてきた思い出のある場所への外出を多職種スタッフが連携して実現させましたが、病棟主任の杉山は主体的に関わり、患者さんの尊厳を重んじる当院の理念を実現してくれました。是非理事長賞にご推薦申し上げます。

### 内 容

---

I・O様（70代 男性、右大腿骨頸部骨折・原発性肺腺癌）入院期間：R2年6月～R3年4月

終末期肺がん（ステージⅣ）で緩和ケアをおこなっていたI・O様は、入院前は海釣りが趣味で愛称が「熱川堤防の主」。担当看護師の杉山は認知機能が低下ぎみだったI・O様に残りの人生を笑顔で穏やかに過ごして欲しいと考え、カンファランスで「もう一度熱川の防波堤を見たい」と希望されていたことを話し、医師・看護師・セラピストが協力して実現に向け動きました。

杉山は付き添いスタッフの調整やルート確認を連携して行い、体調管理に万全を期すべく計画を立てました。そして今年2月下旬。当日は曇りで海風が冷たい天気でしたが、しっかり厚着し、2人介助で乗車し出発。防波堤が近づくと「50年釣っていた場所に行く」と言われ、4人介助で車いすを持ち上げお気に入りの場所へ到着しました。杉山をはじめスタッフ5人と釣った魚の話で盛り上がり、大好きなコーラを飲みながら防波堤でひと時を過ごし、「あまり笑わせないでくれ、胸が痛む」と帰りの車内で笑顔を浮かべ、満足した様子でした。

それから1ヶ月半後、I・O様は永眠されました。亡くなるまで落ち着いて過ごされ、来院されたご家族より「最期に本人の希望を叶えて頂きありがとうございました」と感謝の言葉を頂きました。今回の杉山の行動により多職種が連携し、人生の最期まで自分らしく生きるために医療職として出来ることは何かを考え実行に移し、「こころ豊かな人生を支援する」という病院理念を実現することができました。